

祝！第50回

特集 弘前城 雪燈籠まつり

弘前城雪燈籠まつりは、長い北国の冬を楽しく演出するために市民手作りで行われるまつりで、昭和52年から始まりました。このたび、令和8年2月の開催で第50回を迎えます。たくさんの人たちに支えられてきた弘前城雪燈籠まつりのこれまでの歴史をたどります。

■問い合わせ先 観光課 (☎ 40-0236)



記念すべき
第1回！

1977年 (昭和52年)

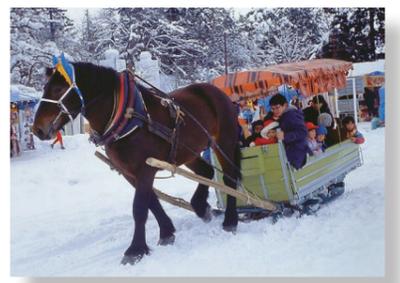


第1回の大雪像のテーマは「弘前城天守」でした。過去に計6回制作された、弘前市のシンボルです。弘前城天守は第50回の大雪像テーマでもあり、令和8年には曳戻しによる天守の移動が予定されています。



1987年

第11回 (昭和62年)



当時のまつりの人気アトラクションと言えば「馬そり」です。大きな馬が力強くそりを引く様子は、たくさんの人に愛されていて、特に子どもたちは、寒い中でも元気に並んで順番を待っていました。

1998年

第22回 (平成10年)



外国の建物が大雪像のテーマになった年もありました。平成10年の大雪像はイギリスの城「ロンドン塔」でした。ほかにもインドの「タージ・マハル」やフランスの「凱旋門」などが作られています。

2010年

第34回 (平成22年)



まつりを訪れた人たちが気軽に参加できる取り組みとして、北の郭での「弘前雪明かり」が始まりました。当時は弘前公園だけでなく、吉野町緑地でも同時開催し、弘前の冬を温かく彩りました。

2011年

第35回 (平成23年)



弘前城築城400年祭の記念として、「津軽錦絵大回廊」が誕生しました。夏の風物詩である弘前ねぶたまつりの熱気と真冬の雪景色が相まって、幻想的な雰囲気を感じました。

2012年

第36回 (平成24年)



東日本大震災から約1年後の平成24年2月、宮城県や岩手県の被災者300人をまつりへ招待しました。復興への決意や感謝の気持ちを書いたメッセージキャンドルが印象的でした。

2023年

第47回 (令和5年)



令和4年は新型コロナウイルス感染症の影響により、まつりが中止に。当時、制作を進めていた大雪像「旧函館区公会堂」は、翌年の令和5年に改めて制作し、まつり復活の象徴となりました。